

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 23 日現在

機関番号：32682

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23720084

研究課題名(和文) 日本演劇の近代化に於ける大正期「オペラ俳優」の特性について 沢モリノを中心に

研究課題名(英文) Research on the actor/actress of Asakusa opera in Taisho Era

研究代表者

中野 正昭 (NAKANO, MASA AKI)

明治大学・文学部・兼任講師

研究者番号：40409727

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円、(間接経費) 750,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題では、これまで断片的に語られてきた「浅草オペラ」と「オペラ俳優」の特性を個別の事例に則して「具体的」に明らかにすることを目的に、時代 環境 作品 人物 の観点から研究を行い、研究成果：学術論文等6、共著1、研究発表2(含海外招聘発表1)にまとめた。

主な成果に、時代 では浅草オペラの「女優」と宝塚歌劇の「生徒」を比較しつつ大正期オペラ運動に於ける俳優の問題を、環境 では上演施設「観物場」の実態を、作品 ではオペラ座『ファウスト』(グノー作、若松美鳥翻訳・脚色)の物語・音楽の改変部分、俳優の歌唱・演技力を分析、人物 では沢モリノの業績と足跡を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to clarify the characteristic of Asakusa opera and the opera actor. Therefore I analyzed them from four points; times, theatre environment, work, and person. I summarized the results of research in six treatises, two books, and two presentations.

Each main result of research is as follows. Times; I considered the problem of the actor in the Japanese opera exercise for the Taisho Era, comparing "the actress" of the Asakusa opera with "the student" of the Takarazuka opera. Theatre environment; I verified the special performance institution Kanbutsu-jyo from both sides of the construction and the theatre law. Work; I analyzed a censorship libretto Charles Gounod's "Faust", translation and dramatization by Midori Wakamatsu, and clarified the details of the early stage performances of grand opera in Japan. Person; I investigated a famous performer Morino Sawa who was known as a opera singer, dancer, and actress with the ability.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：分科：芸術学、細目：芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：日本近代演劇 オペラ/音楽劇 浅草オペラ 大衆文化

### 1. 研究開始当初の背景

従来、浅草オペラは大正期の芸能・演劇文化を代表するものの一つとして広く知られながらも、その内実に関しては、通説を超えた具体的な考察がなされずにいた。浅草オペラは原作を改変・脚色したとされるが、それはどのようなものだったのか、音楽や歌唱はどの程度再現されたのかなどの基本的な事柄に関する研究が不足していた。また浅草オペラの演者についても極一部の者を除き、大半がその名のみを現在に伝えるだけで、実際の活動内容は不明が多かった。また彼らの技術水準、舞台もまた明らかとなつてこなかった。増井敬二『日本のオペラ—明治から大正へ』(民音音楽資料館、1984)、『浅草オペラ物語—歴史、スター、上演記録のすべて』(芸術現代社、1990)等の先行研究では、離合集散の激しい浅草オペラの複雑な歴史が整理され、通史的にその全体を把握できるようになった。しかし、舞台や人物といった個別性の点では未だ不明部分が多数残っていた。研究代表者は、これまでの研究の過程で検閲台本他の一次資料を得ており、それらを用いた実証的な検証・分析を行うことで、浅草オペラとオペラ俳優に関する個別研究の前進が期待できる状態にあった。

### 2. 研究の目的

日本演劇の近代化の課題の一つに「役者」とは異なる「俳優」の確立があったが、大正期の浅草オペラに登場した「オペラ俳優」は日本的な近代化を物語る存在であるということが出来る。浅草オペラは「オペラ」の名に反し、実際にはオペラ、バレエ、台詞劇、ヴォードビル等、当時の「西洋演劇」の様々な要素を包含する大衆芸能だった。そして、その体現者が「歌手」「舞踊家」ではなく、「俳優」と認識されていた点に、西洋舞台受容と日本での芸能・演劇の近代化の特徴を認めることが出来る。すなわち、創造主体である演者や劇団の意志とは必ずしも関係なく、その受容者である観客やマスコミから「俳優」と認識された「オペラ俳優」は、主として創造主体を対象としてきた従来の研究とは異なる、受容者側からの演者の近代化の問題を浮かび上がらせる存在である。

こうした「オペラ俳優」の特性を、本研究では、「浅草オペラ」の舞台の考証と共に、代表的な「オペラ俳優」である“沢モリノ”(1890-1933)を取り上げ、明らかにすることを目的とする。舞台に関しては、特に大衆的な人気を博した浅草オペラ史前半の劇団「オペラ座」の作品を分析する。またオペラ俳優では、既に男性オペラ俳優については藤原義江、田谷力三、石井漠等々に複数の研究や評伝が存在するが、女性の場合は高木徳子と河合澄子があるのみで、研究の遅れが大きい。沢モリノはアメリカで誕生し、日本の帝国劇場歌劇部やオペラ座の舞台で活躍し、朝

鮮大陸で死亡した伝説的人物であり、浅草オペラ史の前半で最も人気のあった俳優のひとりである。彼女の舞台や演技の具体的な内容、その生涯を考察することで、女性オペラ俳優の側から「オペラ俳優」の特性を考察する。

### 3. 研究の方法

本研究では「浅草オペラ」と「オペラ俳優」がどのようなものだったかを具体的に明らかにするために、先ず関東・関西の諸機関での資料調査、所蔵状況の把握、関係者への聞き書きを実施する。特に浅草オペラの専門雑誌『オペラ』『オペラ評論』『歌舞』及び関連雑誌『花形』『女の世界』は全号を所蔵する機関はなく、諸機関の所蔵状況に応じた細目作成を行う。浅草オペラに関する資料は全国に分散しており、その所蔵機関、所蔵資料詳細を把握することは、本研究だけでなく今後のオペラ/音楽劇研究の基礎作業となる重要なものである。

次に収集した資料を基に、時代 環境 作品 人物 の4つの観点から「浅草オペラ」「オペラ俳優」の検証・分析を行う。時代 では大正期のオペラ運動に於ける舞台人の問題を、環境 では浅草オペラが上演された劇場環境とオペラ俳優が置かれていた社会的状況を、作品 では検閲台本を基に原作舞台からの改変・脚色、それに対する観客・識者の評価を考察する。そして、このようにして得られた「浅草オペラ」の舞台面の考察を基にしながら、人物 では沢モリノの研究を行い、「オペラ俳優」の特殊性を明らかにする。

### 4. 研究成果

本研究によって得られた主な研究成果を4つの観点に従い以下に記す。

(1) 時代 : これまで浅草オペラのオペラ女優は、同時期にオペラ運動を展開した宝塚歌劇同様に十代の少女が中心であると考えられてきた。しかし、実際にはその年齢には大きな幅があり、観客の評価も「容貌」「歌唱力」「舞踊技術」等多岐にわたり、それぞれについて評価が下されていたことが分かった。また性的な奔放さから「発展女優」と呼ばれたオペラ女優が、必ずしも世間から非難されるだけでなく、所謂“新しい女”の一例として受けとめられていたことが分かった。浅草オペラとその俳優に関する評価が芸術/社会/風俗等の複数の軸の上に形成されていたことが明らかとなった。

(2) 環境 : 浅草オペラの舞台は有名作品を大幅に短縮したダイジェスト版だったことが知られていた。本研究ではその上演が行われた大正期の特殊な上演施設「観物場」に

着目し、実際には観物場という建築物の条件、それに関する法的規制によって上演作品やその舞台面に様々な制約が加えられていたことを明らかにした。ダイジェスト版での上演が、必ずしも演者の技術的な未熟さに起因するものではなく、外的な要因が多分にあったことは、浅草オペラをはじめ当時の音楽・歌唱技術の見直しを促すものである。

(3) 作品 : 大正 8 (1919) 年に日本館で上演されたオペラ座『ファウスト』(シャルル・グノー作、若松美鳥翻訳・脚色)の検閲台本を分析することにより、これまで浅草オペラでのグランド・オペラ全幕上演は、浅草オペラ後半期の金龍館時代からという定説を修正した。またこの『ファウスト』上演自体が、日本のオペラ上演史に於けるグランド・オペラ全幕上演の最初の実験的な試みだったことが判明した。これまで不明が多かったオペラ俳優の技術水準については、たとえば歌曲の場合は独唱・二重唱を中心に歌われ、それ以上は省略するか二重唱に編曲し直していることなどがわかった。しかし観物場での上演という制約、一日に二~三回公演を行う浅草の常設館の興行方式といった厳しい条件下の中で全幕上演を可能にしたことを考慮すれば、オペラ俳優の技術水準は当時の日本にあって必ずしも低いものではなかったと考えられる。また作品内容に関しては、若松が原作の物語や音楽に削除・改変・追加を行うことで、『ファウスト』の音楽性よりもメロドラマ的・道徳的な物語性が強調され、オペラや西洋の文化事情に詳しくない大衆的な観客にも開かれた作品になるよう作り替えられていたことがわかった。これらを総合して考えると、浅草オペラは、単なる名作オペラのダイジェスト版ではなく、日本の文化的文脈に応じて再構築された独自の音楽劇として評価することができる。

(4) 人物 : 沢モリノ(1890-1933)は浅草オペラの人気と実力を代表するスターとして、今日までその名を知られながらも、その舞台・技術・足跡は詳らかにされてなかった。本研究では上記『ファウスト』の舞台にも立った沢モリノの人生を主に雑誌、新聞から調査・検証し、特に不明が多かった彼女の生い立ちと晩年を明らかにすると共に、浅草オペラ時代の人気「少女的な容貌」「舞踊の巧みさ」「性格の真面目さ」に拠ったことがわかった。浅草オペラで活躍する頃のモリノは既に三十歳近く、他のオペラ女優より高齢だったが、「少女的な容貌」が主役・準主役を演じる上で観客に好意的に受けとめられ、技術面では歌唱よりも「舞踊」によって第一人者と見なされていた。さらに一般に浅草の女優はその性的な魅力で人気を集めたとされるが、モリノの場合は逆に芸術求道者的な「性格の真面目さ」が支持された。こうしたモリノの人気の原因は、オペラ俳優に対

する観客の要求が必ずしも娯楽だけではなかったことを示唆している。

以上の研究成果によって、これまで概略的語られ、通説の域を出ることが難しかった「浅草オペラ」「オペラ俳優」の実際を具体的に明らかにすることができ、大正期のオペラ/音楽劇研究を着実に前進させることができた。浅草オペラに限らず、作品研究、人物研究は日本のオペラ/音楽劇史の研究に於いて未だ十分な考察がなされてこなかった。こうした研究状況に対して本研究は、一つの打開策となる研究展開を促すものと考えられる。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

中野正昭、オペラという見世物 大正期浅草オペラと観物場興行、演劇映像学 2011、査読有、第3巻、2012年、pp.57-76

中野正昭、浅草オペラにみるグランド・オペラ『ファウスト』上演の試み、文芸研究、査読有、第119号、2013年、pp.1-25

中野正昭、宝塚歌劇考 宝塚と浅草 民衆娯楽の理想郷、歌劇、査読無、通巻1050号、2013年、pp.118-119

中野正昭、宝塚歌劇考 小林一三と岸田辰彌、歌劇、査読無、通巻1055号、2013年、pp.86-87

中野正昭、翻刻 ローシー・オペラ 歌劇『椿姫』、文芸研究、査読無、第121号、2013年、pp.19-50

中野正昭、澤モリノの浅草オペラ時代、文芸研究、第122号、査読有、2014年、pp.95-111

[学会発表](計2件)

中野正昭、東京の歌劇運動からみた初期の宝塚歌劇、パネル・ディスカッション「東アジアの演劇市場における近代としての宝塚歌劇 娯楽、展示、集団、学制」(代表: 中野正昭、パネリスト: 中野正昭・濱口久仁子・細井尚子) 日本演劇学会、2013年6月22日、共立女子大学

中野正昭、從東京の舞台娯楽來看歐美化/近代化 浅草/新宿/丸之内、国際シンポジウム「歌・舞・劇 戯劇與大衆性」、2013年11月2日、国立台北芸術大学

[図書](計2件)

中野正昭、森話社、ムーラン・ルージュ新

宿座 軽演劇の昭和史 、2011年、総 429  
頁

吉田弥生編、共著：吉田弥生・酒井澄夫・  
田畑きよ子・阿部さとみ・村島彩加・中野正  
昭・細井尚子、開成出版、歌舞伎と宝塚歌劇  
相反する 密なる百年、2014年、総 256  
頁 ( pp.181-206 )

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

中野 正昭 ( NAKANO, Masaaki )  
明治大学・文学部・兼任講師  
研究者番号：40409727

### (2) 研究分担者

(        )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

(        )

研究者番号：